

## 2 子育て（保育・教育）環境の整備について

(1) 幼児教育環境の現状とこれから

第12次総合計画の重点事業の一つとして「子育て環境」が取り上げられ、その核となるのが、保育所・こども園、小・中学校です。よりよい子育て環境、公共施設の最適化の観点を中心に質問します。

### 問い⑤

①保育施設、環境について。

現在、倉吉市には19の認可保育所（公立8，市立11）と6つの認定こども園（全て私立）等があります。4点お伺いします。

- ・市内認可保育所・認定こども園の定員と入所人数はどうなっていますか。
- ・市内の認可保育所と認定こども園の市外からの利用者数と市外施設への利用者数はどうなっていますか。
- ・認可保育所と認定こども園の職員配置状況はどうなっていますか。
- ・認可保育所と認定こども園の建物の築年数はどうなっていますか。

### 答弁

(1) 定員、入所数、入所率

公立保育所： 定員655人、入所数353人、入所率53.9%

私立保育所： 定員665人、入所数739人、入所率111.1%

認定こども園： 定員730人、入所数708人、入所率97.0%

(2) 職員配置状況

公立 正規35人、非正規67人、計102人、34.3%（正規の率）

私立 正規186人、非正規120人、計306人、60.8%

(3) 市外からの通所児、市外への通所児

市外からの通所は、公立保育所2，私立保育所83，こども園67，合計152名です。市外への通所は18名です。

(4) 築年数

公立保育園 36、37、40(2)、41、42、46、48 全て35年以上

私立保育園 4、8、35、38、39、42、43、46、49、50 様々

認定こども園： 11、12(2)、26、40、43(51) 築年があさい

\* 答弁を受けて \*

②保育・幼児教育のこれから

倉吉市公立保育所の再編は、平成25年1月に倉吉市公立保育所のあり方検討委員会の提言からスタートし、再編に関する基本的な考え方は、「民間活力を導入、地域で必要とされる子育て支援を推進、保育士を確保し、正規職員の割合を高め、認定こども園への移行を検討」等でした。平成24年度の入所率は、公立保育所85.1%（現在53.9%）、私立保育所99.6%（現在111.1%）、幼稚園66.3%（現在のこども園）97.0%で、公立保育所の入所率の低下が目立ちます。また、職員配置状況も正規職員が私立60.8%に対し公立34.3%というのも驚きです。公立保育所の施設の老朽化も目立ち、多様化する保育ニーズへの対応ができるか心配です。

#### 問⑥

現在、公立保育所の再編が進行中ですが、更に先を見据えた計画が必要だと考えます。保育・幼児教育のこれからを踏まえた環境整備計画・今後のビジョンはありますか？

#### 答弁

今後の保育行政についての質問。平成25年、倉吉市公立保育所のあり方検討委員会の再編に関する基本的あり方に基づき再編を進めている。平成31年「倉吉市公立保育所の役割と施設の配置に関する基本方針」を定め、令和2年8月の議員懇談会でも説明をしている。元に戻って考えてみると、小鴨、上小鴨、関金の保育事情や上井や西郷地区の保育事情は、検討課題として挙がってきているところで、子どもの数や体制の整備について中・長期的な視点での検討は今後必要だろうと思っているところであり、しっかり検討して参りたい。

\* 答弁を受けて \*

平成31年3月に出された「倉吉市公立保育所の役割と施設の配置に関する基本方針」では「保育行政と取り巻く環境の変化への対応、行財政改革と持続可能な行政経営の推進、公共施設等の総合管理計画にもとづく施設の配置」をあげています。全国的にも公立保育所施設の老朽化、正規職員の確保の困難さなどから湯梨浜町長瀬こども園のような公設民営化の流れもあります。

#### 問⑦

保育行政の今後に対する市長の考えを再度お聞きします。

## 答弁

湯梨浜町の公設民営の話がありました。上井保育園も今年度から民営化したわけでありまして、市街部での民間対応が十分可能なところについては、そちらの方のサービスの提供といった分でも非常に保護者の満足度も高いものがあり、サービスの低下に至らないところは民活を進めていきたいし、中山間地で民間が取り組まないところは公設で対応していく必要がある。地域特性を考えながら中・長期的な視点で考えていく必要がある。